

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 12 月 12 日 (2019.12.12)

【公表番号】特表 2017-534395(P2017-534395A)

【公表日】平成 29 年 11 月 24 日 (2017.11.24)

【年通号数】公開・登録公報 2017-045

【出願番号】特願 2017-525798(P2017-525798)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/42 (2006.01)

A 6 1 B 17/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/42

A 6 1 B 17/02

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 1 日 (2019.11.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

組織辺縁を定める体開口部に通して組織検体を取り出すシステムであって、前記システムは、

軟質の耐切断性材料で作られたバンドを有するシールドを含み、前記バンドは、頂端部および底端部ならびに第 1 の端部および第 2 の端部によって互いに連結された内面および外面を有し、前記バンドは、長手方向軸線を備えた中央ルーメンを画定するよう構成され、前記中央ルーメンは、前記長手方向軸線に垂直なルーメン直径を有し、前記バンドは、前記第 1 の端のところの外面の少なくとも一部分が前記第 2 の端のところの前記内面とオーバーラップするとともに該内面と並置関係をなして螺旋を形成するとともにオーバーラップ部分を構成する縮小形態にバンドが動くことができるよう分割され、前記シールドは、前記螺旋内における前記オーバーラップ部分の長さを変化させることによって可変ルーメン直径を有するよう構成され、

前記ルーメン直径を固定するよう構成されたロック機構体を含み、前記ロック機構体は、前記内面上に形成された少なくとも 1 つの内側当接部を含み、前記少なくとも 1 つの内側当接部は、前記長手方向軸線沿いに前記バンドの少なくとも一部分に沿って前記頂端部と前記底端部との間に延び、前記第 1 の端は、ロック形態において内径の縮小を阻止するよう前記少なくとも 1 つの内側当接部に接触するよう構成され、前記第 1 の端は、前記バンドの前記第 1 の端または前記第 2 の端のうちのどちらが前記長手方向軸線に向かって内方に位置するかを示すマーカによって区別される、システム。

【請求項 2】

組織辺縁を定める体開口部に通して組織検体を取り出すシステムであって、前記システムは、

軟質の耐切断性材料で作られたバンドを有するシールドを含み、前記バンドは、頂端部および底端部ならびに第 1 の端部および第 2 の端部によって互いに連結された内面および外面を有し、前記バンドは、長手方向軸線を備えた中央ルーメンを画定するよう構成され、前記中央ルーメンは、前記長手方向軸線に垂直なルーメン直径を有し、前記バンドは、前記第 1 の端のところの外面の少なくとも一部分が前記第 2 の端のところの前記内面とオ

オーバーラップするとともに該内面と並置関係をなして螺旋を形成するとともにオーバーラップ部分を構成する縮小形態にバンドが動くことができるよう分割され、前記シールドは、前記螺旋内における前記オーバーラップ部分の長さを変化させることによって可変ルーメン直径を有するよう構成され、

前記ルーメン直径を固定するよう構成されたロック機構体を含み、前記ロック機構体は、前記内面上に形成された少なくとも1つの内側当接部および前記外面上に形成された少なくとも1つの外側当接部を含み、前記少なくとも1つの内側当接部および前記少なくとも1つの外側当接部は、前記長手方向軸線沿いに前記バンドの少なくとも一部分に沿って前記頂端部と前記底端部との間に延び、前記少なくとも1つの内側当接部は、ロック形態において内径の縮小を阻止するよう前記少なくとも1つの外側当接部に接触するよう構成され、前記バンドは、休止ルーメン直径を規定する休止形態を含み、前記バンドは、前記休止形態にあるときにオーバーラップ部分を有しないように形成されると共に、増減されたルーメン直径から前記休止形態及び前記休止ルーメン直径に向かってスプリングバックするように形成されている、システム。

【請求項3】

組織辺縁を定める体開口部に通して組織検体を取り出すシステムであって、前記システムは、

軟質の耐切断性材料で作られたバンドを有するシールドを含み、前記バンドは、頂端部および底端部ならびに第1の端部および第2の端部によって互いに連結された内面および外面を有し、前記バンドは、長手方向軸線を備えた中央ルーメンを画定するよう構成され、前記中央ルーメンは、前記長手方向軸線に垂直なルーメン直径を有し、前記バンドは、前記第1の端のところの外面の少なくとも一部分が前記第2の端のところの前記内面とオーバーラップするとともに該内面と並置関係をなして螺旋を形成するとともにオーバーラップ部分を構成する縮小形態にバンドが動くことができるよう分割され、前記シールドは、前記螺旋内における前記オーバーラップ部分の長さを変化させることによって可変ルーメン直径を有するよう構成され、

前記ルーメン直径を固定するよう構成されたロック機構体を含み、前記ロック機構体は、前記内面内に形成された少なくとも1つの内側当接部を含み、前記少なくとも1つの内側当接部は、ロック状態のルーメン直径を有するロック形態を定めるよう前記第1の端または前記外面内に形成された少なくとも1つの外側当接部のうちの一方に接触するよう構成され、

前記バンドの前記外面は、前記長手方向軸線に沿って前記頂端部から前記底端部まで設けられるとともに前記第1の端から前記第2の端まで前記シールドの周りに円周方向に延びる陥凹を有する、システム。

【請求項4】

前記バンドは、前記内面の周囲周りに間隔を置いて配置された複数の内側当接部を有し、前記外面は、複数の受け入れ領域を有し、各受け入れ領域は、前記長手方向軸線に向かって延びるとともに前記縮小形態にあるときに内側当接部を受け入れるよう寸法決めされるとともに形作られている、請求項1～3のうちいずれか一に記載のシステム。

【請求項5】

前記複数の受け入れ領域のうちの各受け入れ領域は、前記内径の減少を阻止するよう前記受け入れ領域内に受け入れられた内側当接部に接触するよう構成されている外側当接部を有する、請求項4に記載のシステム。

【請求項6】

前記バンドの前記内面は、前記複数の受け入れ領域のうちの各受け入れ領域の対応する位置のところに、内側当接部と相互連結された斜面を有し、前記斜面は、前記内側当接部および前記第2の端からの距離が増大するにつれて縮小している、請求項4又は5に記載のシステム。

【請求項7】

前記複数の内側当接部のうちの各内側当接部は、前記内面の周りに配置され、前記縮小

形態にあるとき、各内側当接部は、これに対応して配置された受け入れ領域内に受け入れられるようになっている、請求項4～6のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 8】

複数の前記内側当接部及び複数の前記外側当接部は、それぞれ前記内面及び前記外面から垂直に延びている、請求項 1～7のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 9】

複数の前記内側当接部のうちの各内側当接部及び複数の前記外側当接部のうちの各外側当接部は、一定の高さを有し、この高さは、前記内面と前記外面との間の前記バンドの厚さに等しい、請求項 1～8のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 10】

複数の前記内側当接部は、前記内径を可変的に固定するために多数の解除可能なロック位置を提供するよう前記バンドの周囲周りに間隔を置いて配置されている、請求項 1～9のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 11】

前記バンドは、休止ルーメン直径を規定する休止形態を含み、前記バンドは、前記休止形態にあるときにオーバーラップ部分を有しないように形成されると共に、増減されたルーメン直径から前記休止形態及び前記休止ルーメン直径に向かってスプリングバックするように形成されている、請求項 1又は3に記載のシステム。

【請求項 12】

前記第1の端は、前記バンドの前記第1の端または前記第2の端のうちのどちらが前記長手方向軸線に向かって内方に位置するかを示すマーカによって区別される、請求項2又は3に記載のシステム。

【請求項 13】

前記内面は、3つの内側当接部を有し、前記外面は、3つの外側当接部又は対応する受け入れ領域を有する、請求項 1～12のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 14】

前記縮小形態では、前記バンドの前記外面の少なくとも一部分は、前記バンドの一部の内面が前記バンドの前記外面内に嵌まり込むよう前記バンドの前記内面の少なくとも一部分とオーバーラップするとともに前記内面の少なくとも一部分に向いている、請求項 1～13のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 15】

収納袋を更に含み、前記シールドは、前記収納袋の少なくとも一部分を外科的細切から保護するよう前記収納袋内に配置されている、請求項 1～14のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 16】

前記ロック形態は、前記内径の拡張が阻止される、請求項 1～15のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 17】

前記バンドの前記外面は、前記長手方向軸線に沿って前記頂端部から前記底端部まで設けられるとともに前記第1の端から前記第2の端まで前記シールドの周りに円周方向に延びる陥凹を有する、請求項 1又は2に記載のシステム。

【請求項 18】

前記頂端部は、半径方向外方に延びて前記ルーメン直径が前記頂端部に向かって増大する漏斗状の形を形成する頂部フランジを有し、前記底端部は、半径方向外方に延びて前記ルーメン直径が前記底端部に向かって増大する漏斗状の形を形成する底部フランジを有する、請求項 1～17のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 19】

前記シールドは、2つ以上のロック形態を有し、各ロック形態は、異なるロック状態のルーメン直径を有する、請求項 1～18のうちいずれかーに記載のシステム。

【請求項 20】

前記ロック機構体は、体開口部又は孔内に挿入されると、組織圧力と関連して機能して前記ロック形態を実現する、請求項 1 ～ 19 のうちいずれかに記載のシステム。

【請求項 21】

前記ロック形態にあるとき、前記シールドは、前記体開口部又は孔内に挿入されると、前記組織辺縁をレトラクトする、請求項 20 に記載のシステム。

【請求項 22】

前記シールドは、前記体開口部又は孔内に配置されて前記組織辺縁によって前記シールドに及ぼされた円周方向圧力を受けた場合にのみロック形態のままである、請求項 1 ～ 21 のうちいずれかに記載のシステム。

【請求項 23】

前記バンドの前記内面の一部は、増大されたルーメン直径を有するように外方に配置され、前記増大されたルーメン直径は、隆起部から第 2 の端まで前記バンドの前記内面の前記一部に沿って延び、前記バンドの前記内面の前記一部は、前記バンドの前記内面と前記外面との間で規定された前記バンドの幅と等しい距離まで配置される、請求項 1 ～ 22 のうちいずれかに記載のシステム。

【請求項 24】

前記隆起部は、最も小さなロックされたルーメン直径を有しているときの前記ロック形態において前記バンドの前記第 1 の端に接触するよう構成され、複数の前記内側当接部は、前記隆起部と前記第 2 の端との間に配置される、請求項 23 に記載のシステム。

【請求項 25】

前記頂端部と前記底端部との間の前記バンドの部分は、前記シールドの面長さの 50 パーセントに少なくとも等しい又は 50 パーセントより大きい、請求項 1 又は 2 に記載のシステム。

【請求項 26】

前記少なくとも 1 つの内側当接部及び前記少なくとも 1 つの外側当接部は、前記頂端部と前記底端部との間の前記バンドの少なくとも一部分に沿って前記長手方向軸線に沿って延び、前記頂端部と前記底端部との間の前記バンドの前記一部分は、前記シールドの面長さの 50 パーセントに少なくとも等しい又は 50 パーセントより大きい、請求項 3 に記載のシステム。

【請求項 27】

前記マーカは、模様付き表面を備えたグリップ、タブ、又は前記バンドの前記頂端部又は前記底端部の近くに位置するコントラストをなす色の領域、を含む、請求項 1 又は 12 に記載のシステム。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0163

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0163】

シールド 5000 は、第 2 の外側当接部 5028 よりも第 1 の端 5010 から長い距離のところに配置された第 3 の外側当接部 5030 を更に有している。具体的に説明すると、第 3 の外側当接部 5030 は、第 1 の端 5010 から約 100° のところに配置されている。第 3 の外側当接部 5030 は、外面 5004 上に形成されている。第 3 の外側当接部 5030 の表面は、第 1 の端 5010 に向き、この表面は、外面 5004 に実質的に垂直でありかつ外面 5004 から内方に長手方向軸線に沿って頂端 5006 と底端 5008 との間に延びている。外側当接部が内方にのびることにより、内面 5002 上に傾斜路状の表面が作られる。第 3 の外側当接部 5030 は、バンドまたは内側当接部の厚さにほぼ等しくまたはこれよりも大きな外面 5004 からの高さを有している。第 3 の外側当接部 5030 は、第 1 の端 5010 が図 167 に示されているように内側隆起部 5016 に当接すると、第 1 の内側当接部 5020 に対応してこれを受け入れるよう構成されている。

別の形態では、第1の端5010は、本明細書において説明するような内側隆起部5016としては構成されていない第4の内側当接部に当接する。第1の内側当接部5020と第2の内側当接部5022と第3の内側当接部5026は、実質的に平行である。第1の端5010が第2の端5012とオーバーラップして第1の端5010のところの外面5004が縮小直径方向／側方形態において第2の端5012のところの内面5002を覆った状態でこれに向くと、第1の端5010は、第1の内側当接部5020か第2の内側当接部5022か第3の内側当接部5026か内側隆起部5016かのいずれかに接触して内径を可変的に調節して内径の寸法をロックし、この寸法のそれ以上の減少を阻止するよう構成されている。一形態では、内側隆起部を含む内側当接部の全ては、実質的に等間隔を置いて配置されている。第1の端5010は、図167では内側隆起部5016に接触して約28mmの最も小さな相対内径を有するシールド5000を構成している状態で示されている。第1の端5010が内側隆起部5016に接触すると、第1の内側当接部5020、第2の内側当接部5022、および第3の内側当接部5026は、外面5004に当てて配置され、特に、第3の外側受け入れ領域または当接部5030、第2の外側受け入れ領域または当接部5028および第1の外側受け入れ領域または当接部5024内にそれぞれ受け入れられまたはこれに当たった状態で受け入れられている。シールド5000をロック解除するため、シールド5000の内側の嵌まり込みセグメント、すなわち、第1の端5010を長手方向軸線に向かって動かして当接面を互いに解除する。第1の端5010は、シールド5000のどの端がシールド5000内に嵌め込まれて当接部がそれに応じてインターロックするようになっているかについてのユーザに対する指標として役立つマーカ5032、例えばタブ、模様付き表面を備えたグリップ、または例えば頂端5006または底端5008の近くに位置するコントラストをなす色の領域で区別される。また、マーカ5032は、模様付き場所を提供してシールドを引きまたは掴むことによってロック形態からのシールド5000の取り出しまたは解除を容易にする。マーカ5032は更に、シールドが長手方向軸線に沿って非対称で或る場合にシールドのどの側部が上に向いているかをユーザに指示する方向目的に役立つことができる。